

さ な か ほうきょういんとう
116. 佐中宝篋印塔

■ 指定日

平成1年12月12日

■ 種別

有形文化財 建造物

■ 年代

室町時代

■ 所在地

朝来市佐中

■ 所有者

個人



■ 内容

佐中地区より奥約1kmの路傍の、小堂に安置されている宝篋印塔。
佐中深高寺の記録によると、丹波から入ってきた佐中の豪族進藤敦景の墓であることが想像される。

塔身四面には月輪を彫って、その中に金剛界四方仏の種子が刻まれている。基礎の輪郭右側には「応永31年」(1424)、左側には「12月8日」とある。また、中央の格狭間の中に「結衆十五人敬白」と刻んでいるが、ここに文字を彫る例は希少である。笠石の隅飾りの傾斜や基礎の半花座や格狭間の手法はこの室町時代の特色を示している。相輪部の欠損が惜しまれる。